

科目名	在宅看護論 (Home Care Nursing)			科目コード	237
開講学科	看護学科	選択区分	必修	単位数 (時間)	2 単位 (45時間)
科目区分	専門科目	履修時期	3 年次前期	関連DP	看②③⑤
担当教員	窪田 静、長尾 奈美				
授業概要	様々な療養の場で生活する在宅療養者を長い時間軸で捉え看護する方法について、実践例を示し演習や発表を通して教授する。				
授業目標	外来・訪問・病棟・入所施設・通所施設等、生活の場それぞれでの療養者像と看護を理解する。生活の継続性を支える視点から在宅看護をとらえ、在宅ケアチームでの看護師の役割を理解する。在宅療養者の多面的な背景や全体像を捉え、「その人らしく生きること」を支える方法を理解する。生活空間拡大とQOL向上を図るための、基礎的な生活環境整備とケア技術を学び、経験する。				

授業計画

回	項目	内容	担当者
1～2	在宅看護の目的と特徴 在宅看護の対象者	在宅看護のめざすもの 対象者の特徴 住まい方と健康 家族 社会的背景と歴史 国際比較	窪田静
3～4	法令・制度とその活用 1	介護保険制度 医療保険制度 訪問看護制度 在宅医療 診療報酬	窪田静
5～6	在宅看護技術と ヘルスアセスメント	コミュニケーション 食生活と嚥下 排泄 清潔	窪田静
7～8	在宅看護技術と ヘルスアセスメント	在宅酸素療法 中心静脈栄養法 人工呼吸器療法 移動・移乗 褥瘡	窪田静
9～10	在宅療養支援技術	QOLを高め、身体損傷を防ぐ在宅看護技術 臥位のポジショニング リフト移乗・座位移乗・半立位 移乗 車椅子シーティングと移動 入浴 排泄	窪田静 長尾奈美
11～12	在宅療養支援技術 演習		
13～14	在宅療養支援技術	二次障害を減らし、寝たきりを起こす在宅看護技術 臥位の移動～ベッドの背上げ～背面開放座位	窪田静 長尾奈美
15～16	在宅療養支援技術 演習		
17	対象理解と支援	全人的理解 活動制限のアセスメント 意志決定・自己実現を支援する視点と技術	窪田静
18	訪問看護	訪問看護ステーションという職場・訪問看護師という仕事 (教育協力者)	窪田静 長尾奈美
19～20	在宅看護の実際・在宅看護過程	医療依存度の高い在宅療養者 (神経・筋変性疾患)	窪田静 長尾奈美
21	対象理解と支援 法令・制度とその活用 2	障害者への総合的な支援 障害者総合支援法 (教育協力者)	窪田静
22～23	在宅看護の展開	療養上のリスクマネジメント 在宅看護に置ける権利保障	窪田静 長尾奈美
成績評価方法		提示した課題へのレポートと小テストにより評価する。	
教科書		河原加代子他 (2019)「在宅看護論」(医学書院) 窪田静 (2019)「地域包括ケアのための福祉用具の使い方 楽に動ける環境整備・反転学習用映像付」(看護協会出版会)	
参考図書等		宇都宮宏子・山田雅子 (2014)「看護がつながる在宅療養移行支援 病院・在宅 の患者像別看護ケアのマネジメント」(日本看護協会出版会)	
授業時間外の学習について		授業で指示した時に、在宅医療助成勇美記念財団のホームページ内の「訪問看護活用ガイド」「在宅医療テキスト」を用いた自己学習を行う。在宅療養支援技術演習においては、教科書のDVDを用いた反転学習を行う。	
関連科目		160 リハビリテーション医療 163 社会保健制度論 217 老年看護対象論 218 老年看護方法論 222 小児看護方法論 230 精神看護方法論 232 地域看護学概論 236 地域ケアマネジメント論 239 在宅看護論実習	
備考		地域ケアマネジメント論の進捗状況等により、授業スケジュールを変更する場合がある。	